

京都教区時報

第188号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都教区 発行責任者 村上透磨

編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上る河原町カトリック会館5F



創造のはじめ 神語り給い
真理はその様になつた
創造の終わりの日
神はアダム(土の塵)に
ご自分の息を送り
アダム(人間)が成つた

最後の夜 主は
パンとぶどう酒に語りかけ
ご自分のからだと血とされた
今日 司祭は 主と同じ様に
パンとぶどう酒を取り唱える
これはわたしのからだ私の血と

神のみことばにより
万物が成った様に
司祭のことばにより
パンはキリストの体に変る

ああ偉大なる司祭の手よ口よ
神は今日新司祭を創造された
以後神は彼らの言葉に従われる

聖変化する司祭の言葉に
罪を許す司祭の手に
聖靈を祈り求める司祭の声に
全能の神が聴き従われる

司祭よあなた方は今日
キリストの「わたし」となつたのだ

(村上透磨神父)

共同司牧のすすめ

田中健一司教

チャーリー神父が亡くなつた後、田中司教が昨年10月4日に伏見教会で、共同司牧への理解と協力を願われた時の説教の一部を掲載します。

●共同司牧と兼任司牧

皆さんも京都教区の様子をよくご存じのことと思いますが、司祭たちは年々年を取り、そして新しい神父はそう毎年誕生する訳ではございません。従つて第二バチカン公会議以前から今日まで続いてきた一教会一神父と言う形態はもはや許されない、神はお望みにならないと言う状態に、また岐路に立たされているのが私たちではないかと思います。

●一步進んだ共同体を

一方、共同司牧は、「一人のチーフ責任者がいて、そしてもう一人の神父さんがその神父さんと一緒にとなって、それぞれの役務を分担しながら、婦人会の関係はこの人

が、青少年の関係はこの人が、聖書の勉強のことは誰か、或いは社会問題のことについては誰がとうふうに、交流を密にしながら、体となつて神父ばかりではなく、その教会の手伝いをしてくださつているシスター、そしてまた教会の主要なメンバーの役員でいらっしゃる信徒会の役員の皆さんと主任司祭とが一つになつて、ただ洗礼を受けて罪を清められ、そして捷を守り、ミサに与り、キリストと一致し、そして天国に迎えていたくというそういう公会議まえの、これも素晴らしい生き方だと思いますけれども、それよりもう一つ私どもは一步進んだ共同司牧共同体、そして福音宣教共同体にならなければならぬ、そういう時を神様はお与えになつたと思います。先に申しましたように洗礼を受け、そしてご聖体を受け、そして良い一生を送つて、天国へ行くというのは、どちらかというと非常に個人的な信仰だと言われるのでないかと思います。

●宣教共同体

私どもは、いただいた素晴らしい信仰を一層深めさせていただくために神のみことば、聖書と親しむことも大切でありましょう。またミサ聖祭を通じて救いのみ業を

が、青少年の関係はこの人が、聖書の勉強のことは誰か、或いは社会問題のことについては誰がとうふうに、交流を密にしながら、体となつて神父ばかりではなく、その教会の手伝いをしてくださつているシスター、そしてまた教会の主要なメンバーの役員でいらっしゃる信徒会の役員の皆さんと主任司祭とが一つになつて、ただ洗礼を受けて罪を清められ、そして捷を守り、ミサに与り、キリストと一致し、そして天国に迎えていたくというそういう公会議まえの、これも素晴らしい生き方だと思いますけれども、それよりもう一つ私どもは一步進んだ共同司牧共同体、そして福音宣教共同体にならなければならぬ、そういう時を神様はお与えになつたと思います。先に申しましたように洗礼を受け、そしてご聖体を受け、そして良い一生を送つて、天国へ行くというのは、どちらかというと非常に個人的な信仰だと言われるのではないかと思います。

●話し合いの共同司牧を

かような使命を遂行していくために、一教会一神父のかたちでこそして良い一生を送つて、天国へ行くというのは、どちらかというと非常に個人的な信仰だと言われるのではないかと思います。

一方であります。私は先に申しましたように、専任司牧ではなく、共同司牧へと皆さんの理解と、そしてご協力をお願ひしたいと、そのことであります。

ある日曜日には、ミサがないと次第であります。その時には、みことばの祭儀を、そして聖体拜領を通して、神の救いのみ業への賛美と感謝を捧げていただきたいと思います。

他の教会に走つて行きたい気持ちになるかも知れませんが、このようになる場合、教会共同体は分裂してしまいます。

教会の使命というものはミサだけではありません。福音を伝えること、教理を教えること、愛の実行に励むこと、神の国のよきしる道と道具となることだと思います。

今、我々の時代は自由で、自由といふものをいただいております。ただ、悪霊の力によつて世俗主義、物質主義、快楽主義、無関心主義、というものが福音宣教を妨げております。私はかねがね思つてゐることであります。教区内にいらる神父が減つていつても神を賛美し、神に感謝を捧げる場所、教会の数というものは多い程よいと思います。

神様は決して悪いようにはなさません。少々の困難や思い通りにいかないことがあるかも知れませんが、それらを犠牲にしながら、神父が減つて話し合いの共同司牧への軌道乗りをしていただきたいと思います。「愛することは美しい、しかし苦しみつつ愛することはさらに美しい。」

何も知らないというのは恐ろしいことで、まだ洗礼を受けていなかつたのにもかかわらず、「私でも神父になれるのだろうか」と思つてしまつたのが、直接のきっかけです。

叙階された新司祭に聞く

4月25日に

森田直樹新司祭

七

まだ洗礼を受ける前、高校1年時の時、倫理社会の先生として藤堂神父様が来てくださったのですが、「ニセ神父」と自称されていた神父様にとても親近感を持つていました。ところが、年が明けると間もなく、神父様は入院され、帰天されました。お葬式は授業があつて無理だったので、お通夜に行きました。その時、どこからかご婦人の声で、「藤堂神父様が亡くなつて、京都教区も司祭が少なくなるわね」という声が聞えました。

司祭としてどんな事をしたいのか
具体的にはいっぱいあるのです
が、まとめて言うならば、神様が
いつも私たちと共にいてくださる
ということを示す道具として働く
せていただければと思っています。
いろいろと教えていただきながら
歩んでいきたいと思っています。
今後ともお祈り、ご指導を賜りま
すよう、よろしくお願ひいたしま
す。

神学生は、学生気分で毎日を過ごすこともできず、かといって自分で働いて生活費をかせいでのり、わけでもなく、何か中途半端な身分に思えたので、心にぽつかりと大きな穴が開いているような毎日でした。神様に満たしていくだければ、すぐに解決したのでしょうかが、根があまのじやくなのか、神様の回りをぐるぐると回っていたお陰で、低空飛行の神学院生活を送っていました。皆様のお祈りがなければ、どこかに飛んで行つてしまつたのかもしれません。

具体的にはいっぱいあるのです
が、まとめて言うならば、神様が
いつも私たちと共にいてくださる
ということを示す道具として働く
せていただければと思つて います
いろいろと教えていただきながら

せていただければと思つてします。いろいろと教えていただきながら歩んでいきたいと思つています。今後ともお祈り、ご指導を賜りますよう、よろしくお願ひいたしま

司祭になるまでの苦労話

若かつたのです。私は単純に人々と共に生きる司祭になりたいと思ふ、すぐに養成担当司祭の所に相談に行つたのです。しかし22歳になるまで待ちなさいと言われ、その後学校に行つたり、仕事をしたりしました。そして22歳の春、東京の神学院に行つたのでした。

々と共に生きる司祭になりたいと思ふ。すぐに養成担当司祭の所に相談に行つたのです。しかし22歳になるまで待ちなさいと言われ、その後学校に行つたり、仕事をしたりしました。そして22歳の春、東京の神学院に行つたのでした。

の友人と共に遊んだり、侍者をした。まさに教会に育てられた気がします。子供なりに司祭になります。いなと思つていました。しかし転機になつたのは高校生の時です。親から伝えられた信仰は自分にとつて何なのかという事です。私は教会の信徒に反発しました。何故この人達はキリスト者なのに教会に対し、消極的な姿勢で関わるのだろう。そして司祭は他人が必要としている時にも自分を通す事ばかり言つたり、する事ばかり。要するにワンマンだと思いました。若かつたのです。私は單純に人

司祭になつてどんな事をしたいか
自分なりのビジョンは全くあり
ません。毎日の生活の連続が展望
だと思うからです。神の子である
イエスも人間であつたのですから
彼の後を歩む同じ人間として、彼
の苦労多き人生の視点に習いたい
と思っています。そして自分に固
守するのではなく、イエスと共に
生きる人々に固守したいと思つて
います。

司祭になつてどんな事をしたいか
自分なりのビジョンは全くありません。毎日の生活の連続が展望だ
だと思うからです。神の子であるイエスも人間であつたのですから
彼の後を歩む同じ人間として、彼の苦労多き人生の観点に習いたい

毎日でしたが、私はこの道を続けたが、私以上に真剣にキリストに従つて司祭にならうとしている友人神学生を得たからです。家族以上の仲間がいる。たとえ教区は違つても、同じ地面の上で同じ生き方をしていける奴がいる。私は一人で一人よがりに生きているのではないと思ったからです。人間は人間の弱さとくらなさを通して、神の愛を知るものだと気づかされました。

福岡一穂新司祭

ものでないと気づかされました。

(がんばります、よろしくね。)

ステイーブ師

ベシンガード師

既報の通り、フィリピン外国宣教会(MSP)の2人の神父様が2年間の日本語研修を終え、新任地で宣教を開始していただくことになりました。

河原町にジュード・タデウス・ベシンガード師(自由院・日本名)、西院にブリミティヴォ・バラス・ステイーブ師(私をステイーブと呼んでくださいと本人の言)。

MSP (Mission Sociality of Philippines)は1965年フィリピン宣教400年記念を迎えて、フィリピン司教団によりアジア宣教のために創設された。小教区について宣教司牧に従事する事を目的とする。現在会員は約40名、すでに台湾、韓国、タイ、パプアニューギニア、ソロモン諸島で働いておられる。

お2人が来てくださったのは、

日本に滞在しておられるフィリピン人のためではなく、日本人への宣教司牧を目的としているので、どうぞご遠慮なくお慕い?申し上げてください。

韓国隣保聖体会

Sr.李(リ)・マリアゴレッティ
Sr.朱(チュ)・エリザベト



(ここにちはシスター)

弁当を食べながら、夕方までくつろいでいます。小教区では、なかなか味わえないなごやかな雰囲気です。

Sr.李は、センターのメンバーのお母さんの役割を果たしています。

また、平日には、週1回の希望の家の活動以外にも、一人ぐらしお年寄りの訪問で忙しい毎日を送っています。

Sr.朱は、現在YMCAsで日本語を勉強中で、韓国語でしか話ができないません。

センターは現在、お年寄りがくつろげる場所としての役割だけではなく、結婚のために韓国から来た若い婦人たちが、自分たちの悩みを自由に話し合える場所としての役割もあります。又、日曜の午後には子供たちのために韓国語のクラスもあります。

センターでは、シスターがいつもあたたかく迎えて下さいます。留守の事もありますので、前もつて電話をして下さい。

でもあたたかく迎えて下さいます。留守の事もありますので、前もつて電話をして下さい。

TEL 075-841-5964



侍者合宿から

去る3月30日から2泊で、小学4~6年(旧学年)を対象にした侍者合宿が、北野白梅町ヴィアートール宗研館で行われました。

侍者練習では、最初のうちは緊張で固くなっていた子供らも、他のグループの行列する姿、手の合わせ方、歩みの速さなどを観察するようになり、次第に向上心を持つようになりました。

合宿に参加した子供たちの感想を掲載します。

センターワークでは、シスターがいつもあたたかく迎えて下さいます。留守の事もありますので、前もつて電話をして下さい。

センターワークでは、シスターがいつもあたたかく迎えて下さいます。留守の事もありますので、前もつて電話をして下さい。

センターワークでは、シスターがいつもあたたかく迎えて下さいます。留守の事もありますので、前もつて電話をして下さい。

NICE・2 代表者会議報告

河原町教会聖親会（信徒会）機関誌

『イクトウス』創刊五百号に思う

NICE準備委員会で選出された代表者が3月31日から4月1日にかけて集まり、第1回代表者会議を行いました。お互いの自己紹介、各地区の現状報告のほか、以下のことことが確認されました。

①NICEは日本の教会全体の取り組みそのものである

「NICE」というと、長崎や京都での会議だけを考えてしまいますが、第1回の京都での会議で確認された方向性——開かれた教会づくり——を進めてゆくことがNICEです。

②それぞれの小教区や地区での取り組み、進め方を尊重する

ですから、「いつ今までにこの意見をまとめてください」というような方法でなく、小教区や地区ごとの違いを考え、それぞれに合った方法で進めてゆきます。

③第2回長崎全国会議は結果報告ではなく中間報告である

（担当司祭・柳本昭）

10月の長崎会議までに各地区で準備した成果を報告するのではなく、それぞれの教区、小教区、地区で進めている「開かれた教会づくり」の取り組みの中間報告の場である、と考えています。「家庭」はその取り組みのために足がかりとするテーマです。

今後、以上のような取り組みを進めてゆくために、次のようなことを準備することになりました。

①パンフレット「NICE, NICEといいます」は、すでに各教会に配布されていることと想いますので、ぜひ活用してください。

②ビデオ作成

NICEをわかりやすく解説したものを作成しています。

その他、各地区ごとの取り組みを進めていっていただきます。また、この紙面を借りて毎号準備委員会の報告と、各地区的取り組みを紹介していきます。

私ども河原町教会では戦後、昭和二十六年、当教会の主任と教区長を兼務させていた故古屋司教様の司教叙階に伴い、故丸山神父様が主任に就任され、早速信徒会を結成、聖親会と名付けられました。当时青年会の活躍は目覚ましく司教区昇格記念行事として、司教区の発展と古屋司教様に絶ゆる事なき多くの心の花束を捧げようと、青年会が中心となって、信徒間の連絡・親睦を始め、ご病人のお見舞い・ご無沙汰信者の訪問等々を目的として、教会所轄地域を約二十八に地区割をして地域別、隣組組織のロザリオ会を結成発足しました。ロザリオ会は月一回地区内の信者さん宅に集まり、ロザリオの祈りにいろいろの祈りを加え、その後、神父様を囲み親しく、いろんなお話を聞かせて貰つたり時にはゲーム等、各地区とも種々趣向を凝らして楽しい一時を過ごすものです。

「イクトウス」はこの様なロザリオ会活動の中に生まれました。教会のお知らせや、聖親会（信徒会）の行事の報告・予告・信徒（各部会）の動向を始め、教会行

事に参加しての感想や、隨筆・随想等々も掲載されており、ロザリオ会連絡委員は毎月この「イクトウス」を持って地区内の信者を訪問する事が義務づけられており、信徒相互の連絡・親睦・救靈に活用され、その機能を果たしております。以来四十有余年、毎月休みなく発行され本年三月ついに五百号を迎えるに至りました。

「イクトウス」を回顧致します時、あの岡神父様が陸軍将校として又、カトリック信者として戦争に従軍された体験記「戦塵のさなかに」は約六年間にわたる長期連載で読む人をして感動せしめられ、又その後を受けて故高岡宣善氏の「シレネ人シモン」F・A・エンテル著を同氏の翻訳により約十五年の長きにわたり連載された事、その他「聖人伝」・「地獄耳」等々心に残る名作・人気読物が次々と懐かしく思い出されます。

「イクトウス」が教会の、み栄えと、人々の信仰を深め、人々を信仰に導く仲介者として、皆様のご支援のもと、未来永劫この河原町教会に生き続ける事を切に祈り求めるものです。（編集委員 安田記）

▼教区中学生会から▲

みなさん、こんにちは。私たち
は中学生会リーダーです。

去る3月27日より2泊3日の日
程で春の合宿を行いました。中学
生、リーダーあわせて24人で、大
変楽しいひとときを過ごすことが
できました。今回の合宿のテーマ
は、「新しい世界・新しい仲間」
で、「魔女の宅急便」を観、それ
について話し合い、劇や模造紙で
発表しました。その他、ハイ
キングやレクリエーション等を行
い親睦を深めました。

中学生会では、「出会い」を大

切にし、一人でも多くの友達をつ
くるお手伝いができればと思って
います。私たちリーダーも中学生
たちとの出会いを通して、共に色々
なことを学び、逆に中学生から教
わることもあります。この

合宿では、「キリストの言
葉を使わずにキリストの精
神を知る」こともできれば

行っています。次回夏の合
宿は、8月19日から21日の
2泊3日で園部教会で行い
ます。テーマは「ゆにーく」
です。信者であるなしを問

いません。今年は、私たちは、私た
ちが、人々の心は豊かだと。本当
にそう思います。笑顔が素敵です。
あんなにも笑顔が心が引きつけ
るものとは知りませんでした。こ
の笑顔の中では素直になれます。

青年センターは、4月から開館時
間が変わりました。
月々金曜日 3時~7時に開館し
ています。

日曜日は、12時から5時です。
臨時休館がありますので、電話で
確認してください。みなさん来て
くださいね。

青年センター（西谷亜矢）

なお、私たちリーダーも新しい
仲間の募集をしています。活動に
興味のある方、男女問わずお待ち
しています。詳しくは青年センタ
ーまでお問合せください。

* *

青年センターは、4月から開館時
間が変わりました。
月々金曜日 3時~7時に開館し
ています。



(((((おひこ))) あんてな



第三回 バンガラデシユ

体験旅行

宮川真理子

やさしさと笑顔

自然体でいられます。大切な何か

を探し当たる気分です。この国は
私に考えるようにと多くの課題を

与えてくれました。人として生き
る為に大切なもの。それはやさし
さと笑顔。旅行中、「真理子は言
いのです。お金儲けの為に、薬を

街の薬局に売りつけ、病院では診
てもらうためだけで、患者は市内
で値の上がった薬を買わざると

いうシステムになっています。病
院とは名ばかりで、薄暗い、設備
の揃わない部屋に、多くの病人が
溢れています。

しかし、現地の方が素敵なお言葉
をくれました。「この国は貧しい
外から日本を見る事が出来たよう

に思います。物があふれていると、
人間同士の結び付きが少なくなる
ように思います。

砂漠と蚊と異常なまでの雨の日
々。無我夢中のこの10日間。私
中にバングラデシユが大きく割合
をしめてきています。是非、もう

一度行ってみたいですね。

教区スケジュール

27日(日)特別聖体奉仕学習会

(津教会)

6月

1日(火)創立記念ミサ

(聖母女学院中高等学校)

5日(土)聖母女学院七十周年

(大阪・玉造教会)

6日(日)安土セミナリオ記念ミサ

(安土セミナリオ跡)

●結婚相談室(13時30分・河原町カトリック会館・結婚互助会)

●桃山教会創立記念日

6月9日フランシスコ会来日

四百年祭

11日(金)信陸二金会(西陣教会)

12日(土)日本神父音楽講座

(西院カトリック会館)

12~13日宣教司牧評議会

(河原町カトリック会館)

13日(日)CBS指導者研修会

(西院教会)

17日(木)司教顧問会

(河原町カトリック会館)

●京都南及び教区司祭例会

(河原町カトリック会館)

19日(土)正義と平和協議会学習会

(河原町カトリック会館)

19~20日教区青年の為の召命鍊成会(津・研宗館)

(河原町カトリック会館)

26~27日司教総会(東京)

(河原町カトリック会館)

▼銀祝おめでとうございます

▼司祭の人事(4月26日付)

津教会助任 森田直樹師

草津教会助任 福岡一穂師

メリノール女子修道会

Sr伊藤照子

ウイチタ聖ヨゼフ修道会

Srカタリナ高橋

お知らせ

〔変更〕

7月24日(土)仙台カテドラル竣工式・田中司教参加

10月11日(月)三重県信徒大会

(津・セントヨゼフ)

11月5日(金)南信協婦人部追悼ミサ(河原町教会)

11月14日(日)山科教会堅信式

7月25日の予定を取り消し

第92回祈りのコースII
日時・7月2日~4日

場所・唐崎祈りの家

費用・17000円
申込締切・6月21日
福音センターまであなたの良き隣人として
カトリック御葬儀
貨物一式(仏式可)
聖ヨゼフ葬典社
パウロ 杉下安雄
(西院教会所属)
京都市右京区西院寿町23
☎ (075)312-7829

申込先・谷口075-821-0239午後7時以降

▼フランシスコ会来日四百年祭
6月6日(日)前夜祭
(15時・河原町教会)7日(月)本記念祭
(14時・河原町教会)8日(火)野外祭
(10時・野外祭)

9日(水)後祭(9時・河原町教会)

▼おとしよりと生活なさつて
る方々へ「つどい」のおしらせ
6月より毎週
日時・水曜日午後1時半~3時
会場・西院カトリック会館
問合せ・福音センター島本までSrクララ林
カロンデレットの聖ヨゼフ修道女
Srグレイスマリー斎藤翠
Srクリスチナ竹市峰子
聖母カテキスター会
Sr上本一恵Srフランチエスカ井上一恵
Srグレイスマリー斎藤翠
聖母カテキスター会
Sr上本一恵▼みことばをきこう!
テーマ・混沌の中での祈り
創世記1章を手掛かりにして
講師・中川博道師(カルメル会)日時・6月19日(土)午後7時
場所・河原町カトリック会館日時・6月6日(日)午後2時~4時半
場所・聖ドミニコ女子修道院
テーマ・「働く若者は今」
話・福島謙一(JOC)対象・青年男女 無料
申込・Sr田井・Sr鈴木まで
TEL 075-231-2017▼信徒使徒職養成コースの案内
第92回祈りのコースII
日時・7月2日~4日

場所・唐崎祈りの家

費用・17000円
申込締切・6月21日
福音センターまで▼聖書深読默想
日時・7月3日(土)午後5時~4日(日)午後4時
場所・宇治カルメル默想の家
指導・奥村一郎神父
費用・5500円
申込先・谷口075-821-0239午後7時以降